

平成22年度 事業報告



岡山理科大学

理学、工学、情報科学のキーを駆使し、あらゆる学際領域を探索。地球を視野に高度なサイエンスを創造する。



建学の理念に根ざした人材養成を行うため、学部・学科のあり方や事務組織の体制を改革できた。リメディアル教育（高大接続教育）、初年次教育（動機付け）、キャリア教育（社会人力の養成）、基礎学力の教育などのカリキュラムを検討し、実行する組織として教育開発支援機構を設置した。なお、22年度はカリキュラムの検討を中心課題とし、新カリキュラムの実施は23年度より開始する。高大連携、大大連携、社会連携を推進するとともに、積極的に競争的外部資金を獲得することができた。事務組織は教務部と学生部を合併して学務部とし、学生サービスの一元化をはかった。また、庶務部に評価企画課を新設し、大学の現状把握と評価を行い、将来計画を立案することができた。

岡山理科大学 学長 波田 善夫

教育の充実

■ 学士課程教育の構築

中央教育審議会答申に基づいた学士課程教育の充実を図るため、講義回数15回を確保した上で、定期試験期間を従来通り2週間確保するために学期を下記期間に変更し、教育を行いました。

前期：4月1日～9月10日

後期：9月11日～翌年3月31日

■ 教育開発支援機構の設置

本学の建学の理念に沿って、共通教育および初年次教育の充実ならびに教育改善を継続的に行うため、本年4月に教育開発支援機構を設置しました。

■ 日本マレーシア高等教育大学連合プログラム等

日本マレーシア高等教育大学連合プログラム（JAD）（3年次編入）による留学生4名を受け入れると共に、JADプログラム留学生を積極的に受け入れるため、本学大学院生5名をマレーシアに派遣し、基礎教育の補助と留学予定学生との交流を深めました。

また、JADのHELP3後継プログラムの一環で、マレーシア人教員を本学に受け入れ、授業参観を実施しました。

■ 3つの方針

中央教育審議会答申の3つの方針である、「学位授与の方針=ディプロマポリシー」、「教育課程編成・実施の方針=カリキュラムポリシー」、「入学者受入の方針=アドミッションポリシー」を学部・学科・センターごとに定め、冊子およびホームページで公表しました。

■ 大学評価に対する改善報告書

平成18年度の大学基準協会による大学評価結果について、提言（助言）に対する改善報告書を平成22年7月に提出しました。その結果、「本学の改善への取り組み状況は確認できる」との評価を受けました。

■ 自己点検評価

自己点検評価を実施する上で基となる、理念・目的や大学の関連データ等を作成しました。

■ 教員免許更新講習

免許更新制の実施に伴い、より充実した内容での教員免許更新講習を開設しました。

受付期間：平成22年5月10日

～6月11日（17:00）

受付方法：Webによる受付

講習期間：

学内講習：平成22年8月1日～5日

屋久島講習：平成22年12月24日～27日

学内講習科目：

必修科目「教育の最新事情」

（定員100名、参加42名）

選択科目「教師のための理科教育」

（定員40名 理科、参加14名）

「教師のための数学」

（定員40名 数学、参加19名）

「教師のための先端科学技術体験」

（定員20名 技術・工業、参加11名）

屋久島講習科目：

選択科目「屋久島の自然観察実習」

（定員20名 理科・他、参加8名）

■ 博物館学芸員養成課程の充実

博物館法施行規則の改正及び博物館実習ガイドラインの策定に伴う平成24年度からの改正点に対応するため、「博物館実習」を見直し、より充実した内容とするための準備を行いました。

文部科学省選定事業

■ 社会連携研究推進事業「地域社会とのコラボレーションによるQOL向上の一体的アプローチ」

工学研究科の金枝敏明教授を研究代表者として、平成18年度から新規5年計画で開始し、本年度が最終年度となり、最終評価でA評価を受けました。

■ 理科大学発！科学ボランティアリーダー

平成20年度「質の高い大学教育プログラム」で選定された本事業は、3年間の補助期間で本年度終了しました。「科学ボランティアセンター」を設け、学生が科学・工作教室の講師等として、児童生徒の理工系離れの克服および市民の科学技術リテラシー向上に積極的に貢献する科学ボランティアリーダーを養成する取組を行いました。

事業の中心となった教員グループ（高原、滝澤、山口、小林秀、猪口の5名）は「科学ボランティアの人材養成と地域連携による科学理解増進」の功績があったとして、平成23年度文部科学大臣表彰科学技術賞理解増進部門を受賞しました。

■ 科学Tryアングル岡山

平成20年度「戦略的大学連携支援事業」で選定された取組で、岡山の主要3都市（岡山、倉敷、津山）に位置する自然科学系大学、高専（岡山理科大学、倉敷芸術科学大学、岡山大学、津山工業高等専門学校）、研究所が連携し、それぞれの特徴と教育研究資源を集結して、科学による地域の活性化に挑戦する取組であり、連携校の本学に「連携教育推進センター岡山理科大サテライトオフィス」を設け、3年間の補助期間の最終年度を迎えました。



■おかやま医療機器開発プロフェッショナル

平成20年度「科学技術振興調整費」で選定された工学部生体医工学科を中心とし、医療機器開発のスペシャリストを養成するプログラムです。



医療機器の製品化には安全性試験、動物実験、臨床実験、製造承認申請業務など特有の開発ステージがあり、各業務に精通したスペシャリストが必要です。医療機器開発に意欲のある地域中小企業の開発者を対象に必要な知識・技能を教授し、医療機器産業の創出・育成を産業政策の柱とする岡山県と協力して、地域の新産業創出に不可欠な人材を5年間で45人の養成を目標とする取組で、本年度は補助期間5年計画の3年目が終了しました。中間評価ではA評価を受けました。

■グリーン元素科学

平成21年度「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に「グリーン元素科学」が採択されました。



文部科学省は国の第3期科学技術基本計画の一環として「元素戦略プロジェクト」を進めており、「環境問題と希少元素資源の枯渇に対処するための研究」というテーマのもとに共同で研究するための組織が「グリーン元素科学」です。

元素戦略とは、元素の特性を生かして、豊富で無害な元素を組み合わせ、希少元素の代替物質を作り出す研究で、私立大学戦略的研究基盤形成支援事業（研究拠点を形成する研究）の支援のもと、本学の関連分野の研究者が協力して研究するために、共同研究は「汎用元素による新機能創出」、「元素のハイブリッド化による新物質創出」、「生体物質を利用した省元素資源」の3つの研究テーマに分かれています。本年度は5年計画の2年目が終了しました。

■「岡山オルガノン」の構築

平成21年度「戦略的大学連携支援事業」に『「岡山オルガノン」の構築』が採択されました。



大学コンソーシアム岡山の提案により、本学を代表校として岡山県内の15大学が連携し、学士力及び社会人基礎力向上と地域発信力の向上を目指した取組です。

単位互換を活用した教養教育の充実、実践的キャリア教育の共同実施、地域と一体となった人材育成を行うものとなっています。eラーニングシステムなど各大学の特色を共有することで地域全体としての教育力を向上することが期待されます。本年度は3年計画の2年目が終了しました。

平成22年度 新規採択

■大学生の就業力育成支援事業に工学部申請採択

工学部が5月末に申請していた「ものづくり教育と地域連携による就業力育成」が10月に採択、12月から事業開始しました。代表者は工学部長で、①ものづくり就業力育成科目の充実化と体系化、②技術者バンクの構築による地域産学官連携、③キャリアサポートフォリオ作成システムによる学生主体学習を軸としています。

産官学連携

■外部資金の獲得

科学研究費補助金等の競争的研究費、共同研究や受託研究等の外部研究資金の獲得を推進します。外部資金に関する情報収集に努め、説明会等を開催し、外部資金の獲得を目指しました。

■公的研究資金不正使用防止

公的研究資金の不正使用防止のため、研修会や物品検収を行います。研修会で説明を行い、ホームページにマニュアルを掲載しました。マニュアルに記しているように補助金で購入した物品の検収を行って不正防止に努めました。

■知的財産化

1) 発明の知的財産化

研究者の発明を知的財産化することを目指し、職務発明委員会等を通じて職務発明の発掘に努め、6回実施しました。

2) 特許セミナー

特許セミナーを年数回開催し、研究者および学生が研究した成果の知的財産化を推進するため、本年度は2回開催しました。

■地域産業界との交流

地域産業界との交流を推進しました。

1. 岡山県主催の「100研究室訪問」に協力し研究室及び研究機器等を外部へ公開
2. 岡山県（産学官連携推進会議）が主催する「100社訪問」に参加
3. (株)日本政策金融公庫岡山支店中小企業事業主催のビジネス交流会参加
4. おかやま信用金庫、備前信用金庫主催（新規）のビジネス交流会参加
5. 岡山市（岡山工業会）のビジネス交流会参加
6. 岡山市商工会議所のビジネス交流会参加
7. 協定を締結した団体との交流の実施

■委託公開講座

岡山県からの委託公開講座（連携講座）を開講しました。

■外部団体の役員等としての参画

岡山県、および地方公共団体の20以上の委員会等に継続して役員として参画する予定です。各委員会を通じて、産業界や官公庁との連携により、社会貢献に努めました。

■研究成果の社会への発表について

1. 発表会の開催と参加

OUSフォーラム2010を11月に岡山市内で開催し、今年度で10回目を迎えました。その他に東京等で開催される研究発表会に研究シーズの公開をしました。

1) 「OUSフォーラム2010の開催」

(11月24日；岡山（於）)

2) JST科学技術振興機構「新技術説明会」での発表

(7月；8月東京（於）)

3) 「岡山リサーチパーク研究・展示発表会」

(平成22年8月；岡山（於）)

2. 広報活動の実施

本学の研究成果を社会に周知することを目的に冊子「リエゾン」第2号を発行し広く配布しました。またホームページの運営等を通じ積極的に、研究内容の発信に努めました。

22年度新設学科・コース

■理学部基礎理学科

「総合理学コース」「理数系教員コース」開設
基礎理学科の利点を残しながら、その特徴がより目に見えるように2つのコースを開設しました。

「総合理学コース」では、基礎理学を軸に、数学・情報・物理・化学・生物・地学・現代教育の各分野を学びます。

「理数系教員コース」では、附属中学・高校などと協力し、生徒との触れ合いを重視した体験型学習を積極的に取り入れ、理数系分野での実践的な能力を身につけた教員の養成を目指します。

■工学部機械システム工学科

「航空・宇宙コース」開設

自動車産業をはじめとするほとんどの製造業で必要な機械工学技術を体系的に学ぶ「機械(ME)コース」に加え、航空・宇宙分野における最先端技術の一端を学ぶ「航空・宇宙コース」を新たに開設し、両コースを網羅・横断的に学習する「機械システム(MS)コース」(JABEE適合コース)と合わせて3コース体制となりました。

■工学部知能機械工学科

「ロボットシステムコース」「アミューズメント工学コース」開設

知能機械工学科に、知能情報工学を中心とするソフトウェア、ユニバーサルデザインに基づく人間中心設計を学び、人間親和型ロボットを設計・創造できる技術者の養成を目指す「ロボットシステムコース」と、アミューズメント分野での機械系技術者や生活の質向上に役立つ体感プログラム等に用いられる新規ヒューマンインターフェースを設計・創造できる技術者の養成を目指す「アミューズメント工学コース」の2つのコースを開設しました。

■留学生別科 開設

本学または他の日本の大学での入学を希望する外国人で、大学の講義を理解する上で日本語の能力が十分でない者に対し、日本語を教授し、併せて日本文化に関する理解を深めさせることを目的とする、岡山理科大学留学生別科を開設しました。

申請・届出関係

■工学部建築学科 届出

総合情報学部にある建築学科を工学部に移設するため、工学部建築学科設置届を提出しました。

(H22. 4. 28届出)

建築学科は建築工学コースと住デザインコースの選択制とし、学生の興味と適性を重視した教育を行います。具体的には、安心・安全かつ快適な建築と町づくりのために、倫理に則って行動し社会貢献のできる人材を養成し、地域の社会的ニーズに応えることのできる人材の養成、ユニバーサルデザインなどを通して高齢者社会等に安心と安全を提供できる人材の養成、構造設計等を通して安全な建築を提供する人材の養成、省エネルギー等の地球環境を考え快適で環境負荷の少ない構造物を造ることのできる人材の養成を目指します。

特に、新たな文化や技術を生み出す創造性豊かな能力の育成を重視します。

なお、既設の総合情報学部建築学科は、平成23年度より募集停止とし、在学生の卒業をもって廃止となります。(H22. 4. 28文部科学省届出)

■工学研究科建築学専攻 届出

工学部建築学科を基礎とする、大学院工学研究科建築学専攻(修士)設置届を提出しました。

(H22. 4. 28届出)

建築学の基本となる「計画学」「構造工学」「環境設備工学」の3つの分野において、先進的な企画・設計・開発・運用に挑戦する能力を伴った高度な専門性を持つアーキテクトやエンジニア及び研究・開発者の育成、また、1つの分野に特化せず全般に亘り幅広い知識を有し、新たな建築方法の開発や新しい建築材料の生産・開発を目指す実践的で高度なエンジニアや管理者、研究者の育成を目指します。(H22. 4. 28文部科学省届出)

■工学研究科生体医工学専攻 届出

工学部生体医工学科を基礎とする大学院工学研究科生体医工学専攻(修士)設置届を提出しました。

(H22. 4届出)

生体医工学がカバーする主要な3分野(1) 遺伝子・生物学・人間環境工学、(2) バイオメカニクス・生体材料、(3) 電気・電子・情報に関する高度な専門知識と工学的研究開発手法を習得させ、関連する基礎研究や医療機器の研究開発ができる研究者や専門技術者の育成、生体医工学分野の総合的な工学的知識を有し臨床医学分野において診断・治療方針の策定に貢献できる臨床工学技術の研究者や専門技術者の育成を目指します。

(H22. 4. 28文部科学省届出)

■理学部化学科 コース制導入

理学部化学科に、化学やバイオの力で生活に役立つ物質を作ることを目的とした「バイオ有機薬品コース」、環境に携わるスペシャリストを育てる「環境分析コース」、人類のエネルギー問題を

化学の力で解決することをめざす「新エネルギーコース」の3コースの開設準備を行いました。

■教免課程認定申請

工学部建築学科、工学研究科建築学専攻で教員免許取得ができるよう、教免の課程認定申請を行い、認可されました。

■入学定員の変更（変更分のみ）

《学部》

工学部建築学科（定員70名、3年次編入5名）設置に伴い、以下の通り入学定員を変更するため届出しました。（H22. 4. 28届出）

工学部建築学科 70名（新設）

総合情報学部

社会情報学科 70名→80名（10名増）

建築学科 80名→0名（募集停止）

また、近年の学科の充足率を鑑み、理学部応用数学科・化学科、工学部知能機械工学科の入学定員を変更しました。

理学部応用数学科 85名→95名（10名増）

〃 化学科 75名→70名（5名減）

工学部知能機械工学科 60名→55名（5名減）

《大学院》

工学研究科生体医工学専攻（定員6名）・建築学専攻（定員8名）設置に伴い、以下の通り入学定員を変更するため届出しました。

（H22. 4. 28届出）

工学研究科

機械システム工学専攻 14名→13名（1名減）

電子工学専攻 13名→8名（5名減）

情報工学専攻 13名→10名（3名減）

知能機械工学専攻 8名→7名（1名減）

生体医工学専攻 6名（新設）

建築学専攻 8名（新設）

総合情報研究科

情報科学専攻 7名→6名（1名減）

シミュレーション科学専攻 4名→3名（1名減）

生物地球システム専攻 7名→6名（1名減）

社会情報専攻 7名→6名（1名減）

■学費の一部改訂

平成23年度より、総合情報学部の学費を一部改訂するため届出しました。

就職活動支援

■就職進路ガイダンス・各種セミナー

ガイダンスを3年次・修士1年次生時に6回実施、4年次・修士2年次生時に1回実施で計7回行いました。また、マナーセミナー、メイクアップセミナー、業界セミナー等を時期に応じて開催しました。

1年次生、2年次生の低学年に対してのガイダンスも各年次毎に数回行い、3年次生に行うガイダンスへスムーズに移行出来るようにしました。



■就職筆記試験対策講座・公務員試験対策講座

3年次生とM1次生の就職試験対策として、就職筆記試験対策講座を実施しました。また、2、3年次生を対象に公務員試験対策講座を実施します。就職筆記試験対策講座との整合性・学習内容の整理を行った上で開催・実施し、企業希望者と公務員希望者の実状に即した内容の提供を検討しました。

■合同企業説明会

学生が企業の採用担当者と面談する、学内合同企業説明会を開催しました。

また、企業人事担当者と教職員との情報交換会である就職懇談会を岡山・東京・大阪・広島の各会場で開催しました。

■就職支援マガジンの発行

進路や就職に対する、意識の充実・向上のため、就職支援マガジン「ME(MAGAZINE FOR EMPLOYMENT)」シリーズ、vol. 0～4を発刊しました。また、各年次において、ガイダンスで活用・解説しながら、入学時から一貫した指導を行いました。

■就職・進路懇談会

4年次生、3年次生とその保護者を対象に「就職・進路懇談会」を実施しました。また、各ゼミ担当教員と学生本人、保護者の3者で、就職環境の現状を伝えるとともに、就職を含む進路、成績などの相談会を実施しました。

■「大学教育・学生支援推進事業」学生支援推進プログラム

就職部の取組「地方理工系大学における迅速で組織的な就職支援システムの構築」が文部科学省平成21年度「大学教育・学生支援推進事業」学生支援推進プログラムに採択され、就職支援システムを中心とした、2年目の事業を計画・実行しました。

また、既卒者用のプログラムを追加しました。

平成23年度入試

本学の入学者受入方針は、本学が持つ研究領域の学習を強く希望する受験生と、高度な研究をめざす受験生の確保です。平成23年度入試では早期の入試で本学への入学意識を固めた生徒への、入学前のアドバイス・教育をさらに強化しました。

また、受験生の立場に立った、受験関係書類・入学関係書類の改訂、継続した情報提供を実施しました。

■専願制入試

主に本学・学部学科での学習を強く希望する受験生を対象とするため、AO入試・専願入試においては、受験生へアドミッションポリシーの提示などにより、学科内容の再確認を促し、課題や面接を活用しています。

■一般入試

一般入試では、多様な受験生の能力に対応するため、4科目型から1科目型まで多彩な入試方法を採用し、適正に評価する工夫をしています。

広報に関すること

■シンボルキャラクター

広報戦略のシンボルとなるキャラクターが「たんQくん」に決定しました。本学のコンセプトを表現するコミュニケーションシンボルとして、広報活動に活用しました。



■中期戦略2年目 「内容訴求」ステージへ

本学の教育・研究内容を広く知らしめるために、大学案内の全面改定を実施します。「マーケットイン」の感覚に立ち、本学の魅力を再確認し、広報をいたしました。

■関連高校との高大連携強化

生徒の夢を紡いで実現に導く高大連携のシステム作りに、広報の視点からの貢献を試みました。

■県内唯一の理工系私立大学としての使命

中長期的な視点に立ち、一般市民・小中学生を対象としたセミナー・レクチャーを引き続き展開し、本学の地元での位置づけを確固たるものにすることを目指しています。

人事・組織

■新学部長・新研究科長 就任

平成22年4月より、理学部長には高嶋恵三教授、工学部長には林紘三郎教授、総合情報学部長には濱谷義弘教授が就任しました。

なお、研究科長は、岡山理科大学大学院研究科長選考に関する申し合わせに基づき、学部長が兼務しました。

■事務組織の改組

平成22年4月より、組織の簡略化・効率化を図り、学生サービス向上を図るため、従来の教務部、学生部、資格取得支援・教職学芸員センターを統合し、学務部（教務課・学生課・留学生課・資格取得支援課）へ、経理部の会計課・用度課を統合し経理部経理課へ改組しました。

また、庶務部に庶務課、秘書課を置き、新たに大学の現状把握と評価を行い、将来計画を立案する評価企画課を設置しました。

主な行事

4月 3日	入学宣誓式
4月 4日 ～8日	新入生・在学生オリエンテーション
4月17日	就職進路懇談会
5月15日 ～16日	皐月祭
6月20日	オープンキャンパス
7月 7日	七夕エコナイト
7月27日 ～8月6日	定期試験
8月 7日 ～8日	オープンキャンパス
9月14日	後期オリエンテーション
9月18日	教育進路懇談会（本学）
9月26日	オープンキャンパス
11月 3日	特別推薦入試 専門学科・総合学科特別推薦入試Ⅰ期、Ⅱ期
11月13日 ～14日	推薦入試
11月21日 ～23日	半田山祭（大学祭）
11月24日	OUSフォーラム
12月19日	加計学園特待生推薦入試
1月15日 ～16日	大学入試センター試験
1月25日 ～2月7日	定期試験
1月30日 ～2月1日	一般入試前期SA・SAB方式
2月19日	一般入試前期SB・B1方式
3月20日	学位記授与式
3月22日	一般入試後期

学生・教職員数

■在籍学生数

(平成22年5月1日現在)

研究科・学部・学科名		入学定員	入学者数		収容定員	在学者数		秋期入学 ※	
			留学生	社会人		留学生	社会人		
大 学 院	理学研究科(博士)	13	5		39	12	1	1	
	理学研究科(修士)	76	76		152	176	1	1	
	工学研究科(博士)	5	2	1	15	9	5		
	工学研究科(修士)	61	58	3	122	100	5		
	総合情報研究科(博士)	2	1		6	6		3	
	総合情報研究科(修士)	25	21	1	50	33	3		
大学院 計		182	163	5	384	336	15	5	0
学 部	理学部								
	応用数学科	85	119		340	435			
	化学科	75	74	1	300	261	1		
	応用物理学科	70	80		285	251	1		
	基礎理学科	75	99		305	308			
	生物化学科	85	114		345	419			
	臨床生命科学科	85	107		340	382			
	動物学科	40	47		120	153			
理学部 計		515	640	1	2,035	2,209	2	0	0
学 部	工学部								
	バイオ・応用化学科	75	108	1	305	347	1		
	機械システム工学科	85	101	5	340	330	11	1	
	電気電子システム学科	70	78	4	280	268	11		
	情報工学科	85	100	3	340	354	4		
	福祉システム工学科 (募集停止)	—	—	—	—	0			—
	知能機械工学科	60	63	6	250	175	24		
生体医工学科	60	57	11	240	179	28	1		
工学部 計		435	507	30	1,755	1,653	79	2	0
学 部	総合情報学部								
	情報科学科	80	95	4	320	315	6		
	コンピュータシミュレーション学科 (募集停止)	—	—	—	—	2			—
	生物地球システム学科	70	84		290	276			
	社会情報学科	70	100	9	280	346	28		
建築学科	80	56	4	340	213	8	1		
総合情報学部 計		300	335	17	1,230	1,152	42	1	0
学部 計		1,250	1,482	48	5,020	5,014	123	3	0
総合計		1,432	1,645	53	5,404	5,350	138	8	0
理学部理学専攻科		30	0		30	0			
教職特別課程		50	15		50	15			
留学生別科		60	18	18	60	18	18		

(単位:人)

■卒業生数等一覧

(平成22年度)

区分	修了者・ 卒業生	満期 退学	就職希望者		就職者 B	就職率 B/A	進学者	退学者・ 除籍者	休学者	留年者 ※
			A							
大学院	博士	3	2	8	3	38%	0	2	0	6
	修士	144		133	94	71%	8	6	4	6
学部	1,029		791	573	72%	160	164	76	150	
教職特別課程	15		15	15	100%	0	0	0	0	

※ 修業年限を超えて在籍している学生数(平成23年4月1日現在)

(単位:人)

主な就職先	新日本製鉄(株)	JFEスチール(株)	(株)三井住友銀行	日亜化学工業(株)
	住友金属工業(株)	積水ハウス(株)	西日本旅客鉄道(株)	(株)クラレ岡山事業所
				他

■教職員数

(平成22年5月1日現在)

理事長・総長	学長	副学長	教授	准教授	講師	助教	助手	別科講師	教員計
1	1	3(※)	172	65	26	3	2	1	273

(※)事務職員1名(総合企画局長)含む

事務職員	うち大学職員	うち本部職員
	196	113

(単位:人)

財務関係

■消費収支

(単位:千円)

科目	年度	22年度 決算額	前年度 決算額
学納金収入		7,739,266	7,274,912
補助金収入		1,232,432	1,222,292
その他収入		369,615	515,197
帰属収入合計		9,341,313	9,012,401
基本金組入額合計		△ 128,161	△ 16,062
消費収入の部合計		9,213,152	8,996,339
人件費		4,940,606	5,173,147
教育研究経費		2,801,895	2,725,035
管理経費		559,371	523,963
その他支出		141,947	145,845
消費支出の部合計		8,443,819	8,567,990

■施設設備整備状況(抜粋)

主な施設関係

(単位:千円)

事業名	金額
土地購入 第11号館法面	30
半田山荘購入	44,570
土地	
建物	36,600
第十学舎 2.4.6階トイレ改修工事	35,000
第8号館 2.4階トイレ改修工事	17,000
第5号館 2.4階トイレ改修工事	2,750
第27号館4階製図室改修工事	1,650
第11号館屋上ネオンサイン買取	4,294
その他環境整備	2,954

主な装置・設備関係

(グリーン元素科学事業による大型機器)

事業名	金額
ガス、水蒸気、液化透過度測定装置	18,000
マイクロマンピレーター顕微システム	8,800
電気自動車購入	2,880

主な届出・申請関係

事業名	金額
理学部 動物学科 機器・器具 (創設費)	22,800
理学部 動物学科 学術雑誌 (創設費)	2,000
工学部 生体医工学科 学術雑誌 (創設費)	940
総合情報学部 建築学科 学術雑誌 (創設費)	875
グリーン元素科学共同研究	53,942
社会連携研究推進事業共同研究	64,948